

3人への応援メッセージ

元大分市立明野中学校ハンドボール部顧問
薬師寺 徳之

新名亮介さん、渡部仁さん、増田寛那さんの日本ハンドボールリーグでのご活躍を心から応援します。

3人は、平成16年度に大分市立明野中学校を卒業した同級生です。また、この同級生には、すでにオムロンで活躍されている松本紗也香選手がいますし、1学年上には、本年JHLで新人賞を受賞した久保侑生選手（大同特殊鋼）もいますので教え子が5人も実業団に入りし、24年度からは日本リーグでプレーする事は本当に嬉しい限りです。

当時を振り返ると、コート1面・指導者1人の状態でしたが、男女の仲が大変良かったので男女合同の速攻練習を取り入れのもこの学年からでした。

当時の全国大会は、夏だけでしたので九州地区3校の代表枠をかけてがむしゃらに練習した日々を思い出します。女子は、過去に全国優勝を2回していますが男子に至っては、出場が有りませんでした。

そんな時代背景の中で、男子は、久保侑生選手を中心に、初めての全国大会出場を果たし事。また、翌年の平成16年度は、この同級生達が中心となって、男女アベックでの全国大会出場で女子は全国大会復活、男子は2年連続出場を果たした事は大変うれしかったのを覚えています。

さらに、この頃の保護者の応援が感動的で、得点をした選手が応援席の保護者に向かってガッツポーズする姿は圧巻でした。選手・ベンチそして応援席が一体となった瞬間を何度も経験させてもらいました。懐かしい感動と興奮の日々を思い出します。

それぞれの思い出としては、新名さんはハンドボールが大好きで、行事や会議の関係で練習を休みにすると伝えると、とても悲しい顔をして「なぜですか」と訴えてきました。なんとか説き伏せて下校させましたが、そんな時は、一人でロードワークをしていたようです。キャプテンとしての信頼は絶大でした。

渡部さんは、大変器用な選手でどのポジションでもこなせる万能選手でした。3年間の練習試合・大会を通じて1度も交代させなかったのは渡部さんだけでした。向上心旺盛で、何事にも意欲的に取り組むので吸収力の早い選手でした。

増田さんは、屈託のない性格で男女を問わず誰からも好かれていました。男女の仲が良かったのは彼女のおかげだと感謝しています。中学・高校、ほとんど怪我をしなかったのは、日頃の精進の賜だと思います。(なぜケガをしなかったのか？その真実は、わかりませんが・・・)

松本さんは、入学当時から頑張りやさんで抜群の運動センスを持っており、1年時から県選抜の中心選手として活躍していました。素直で何事にも一生懸命取り組むので、チームメイトからの信頼も大変厚いものがありました。

さて、いよいよ激戦の場へ足を踏み入れる皆さんには、「新名さんと渡部さんの対決を楽しみにしています」「レギュラーになって下さい」「日の丸を背負って下さい」と応援メッセージを贈るべきなのでしょうが、私は「“自分らしく”生きてほしい」という言葉を贈ります。自分の個性を見極め、信念に従い、“ブレナイ姿勢”を持って、悔いの残らないように精一杯“生きる”ことが大切です。立派な青年になった皆さんのそんな姿を見ることができれば私は幸せです。

「がんばれ 亮介」 「がんばれ 仁」 「がんばれ 寛那」 「がんばれ 紗也香」
そして、「がんばれ 久保」